

世代間ギャップとは何か？

—社会人と学生の違いから考える—

森・岸本・五島

アウトライン

- 問題提起
- 先行研究
- 研究方法
- 研究結果
- 考察

問題提起

- 世代間ギャップの存在

世代間ギャップは日常生活のありとあらゆる場面に存在する。例えば思考・価値観の差が挙げられる。職場でこれが存在すると、仕事が円滑に進まないことが指摘されている。

- マスコミの報道を例として…

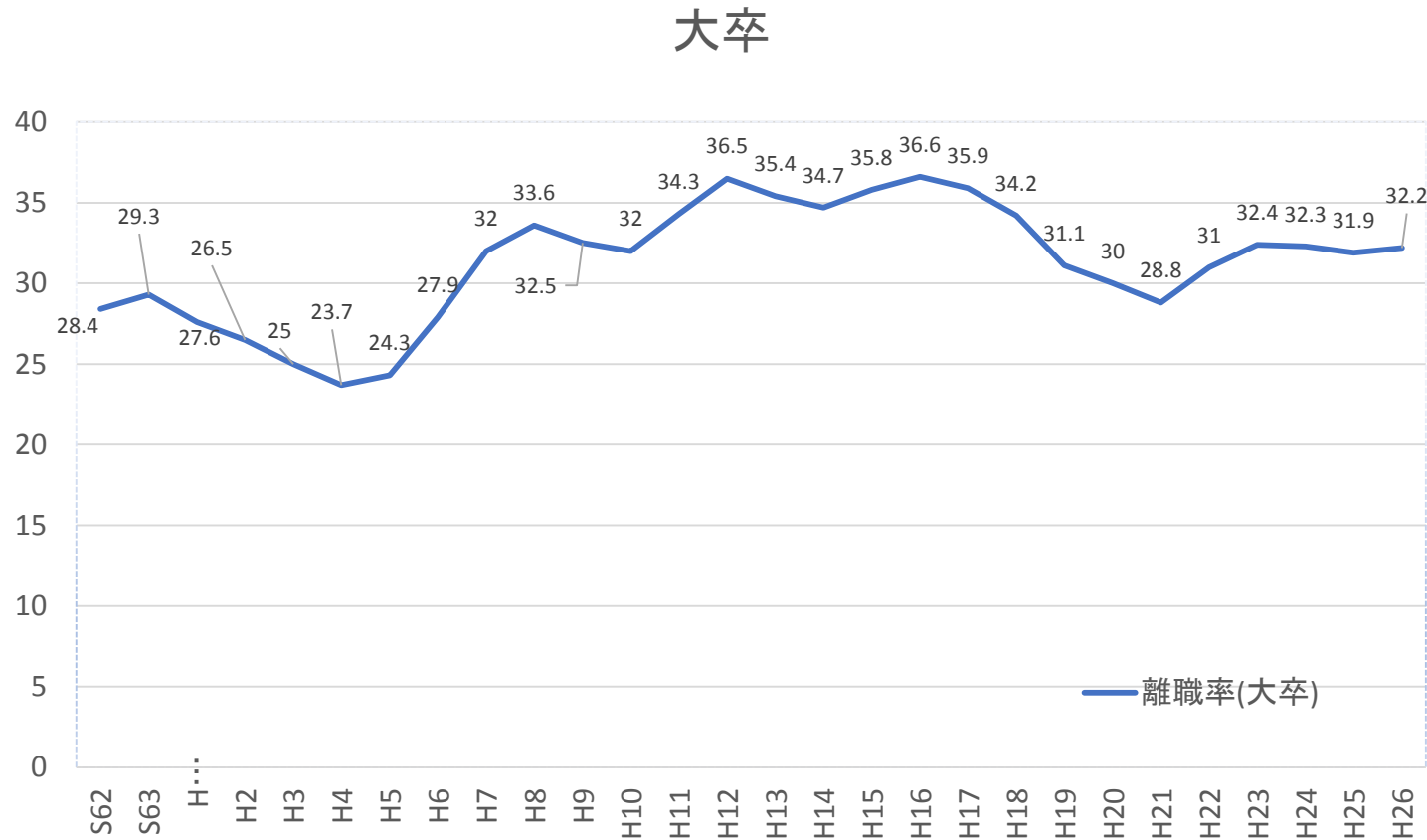
職場内での仕事観やものの考え方の違い（日経MJ2016年10月26日）

50代・60代のアナログ世代は「頑張る」「努力」「根性」などの精神論を好み、曖昧で具体性を欠いた表現が中心となることが多い。

しかし20代のデジタル世代は合理的で、具体的な説明を求める世代である。両者とも思考・価値観の差が大きく異なるので、理解し合うことが難しく溝が深まっている。

社会問題としての表出

- 新卒の人の離職率の高さ



若者の離職理由として「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」が22.2%、「人間関係がよくなかった」が19.6%、「仕事が自分に合わない」が18.8%挙げられている。(平成22年度)



平成四年は離職率が23.7%であったのに対し、ここ数年は30%以上が離職していることが分かる。(厚生労働省調べ)

表1：新規学卒者の離職状況
出所：厚生労働省

先行研究

佐藤友美子（2007）「世代研究の展開と課題—世代間ギャップと次世代研究—」

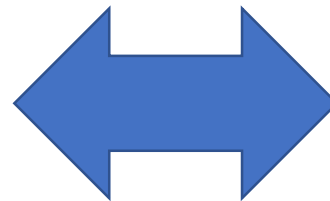
昭和30年代より古い世代をアナログ世代、それより若い世代をデジタル世代と定義し、この世代間の違いが何か考察。

自立の意識が乏しい、キャラを変えるなど

社会が豊かになるにつれ、若い世代で**新しい価値観・行動様式**が台頭している。

アナログ世代

- 生まれたときは物が無い時代
- 生きる意味・働く意味が明確であった
- 自己の成長や豊かになる過程を自身の体験として取り込む



デジタル世代

- 生まれたときにすでに豊かな時代
- 豊かな社会にふさわしい生き方・暮らし方が見いだせない
- 豊かさが前提としてあり、プロセスレスな状況
- 自立の意識が乏しい

研究目的

従来の研究では、老若男女問わず幅広い世代を対象して、若者世代と50代など上の世代との意識格差を探る質問票調査が大半。

本研究では「世代間ギャップとは何か？」というテーマのもと、社会人・学生とで自由に話し合あうことで、実際にどういった場面で「世代間ギャップ」を感じているか調査する。発言の内容を分析することで、社会人と学生が感じている「世代間ギャップ」の違いの有無について明らかにしたい。

世代ごとのグループインタビューではない点が本研究の独創的な点である。

研究方法

- 研究手順
- 調査日2017年8月9日
- ワークショップ参加者41名（社会人11名、学生30名）
- ワークショップの設定（5つのグループに分かれ、大学生と30代・40代社会人を交えて意見交換）
- ワークショップのお題「※世代間格差とは何か」
- ワークショップの聞き起こしを行い、その分析アプリケーションとしてTMSを使った

※当日はディスカッショントピックとして「世代間格差」とは何かというお題があたえられていた。

だが、口頭で「世代間ギャップを意図している」という説明が加えられていたため、本研究では世

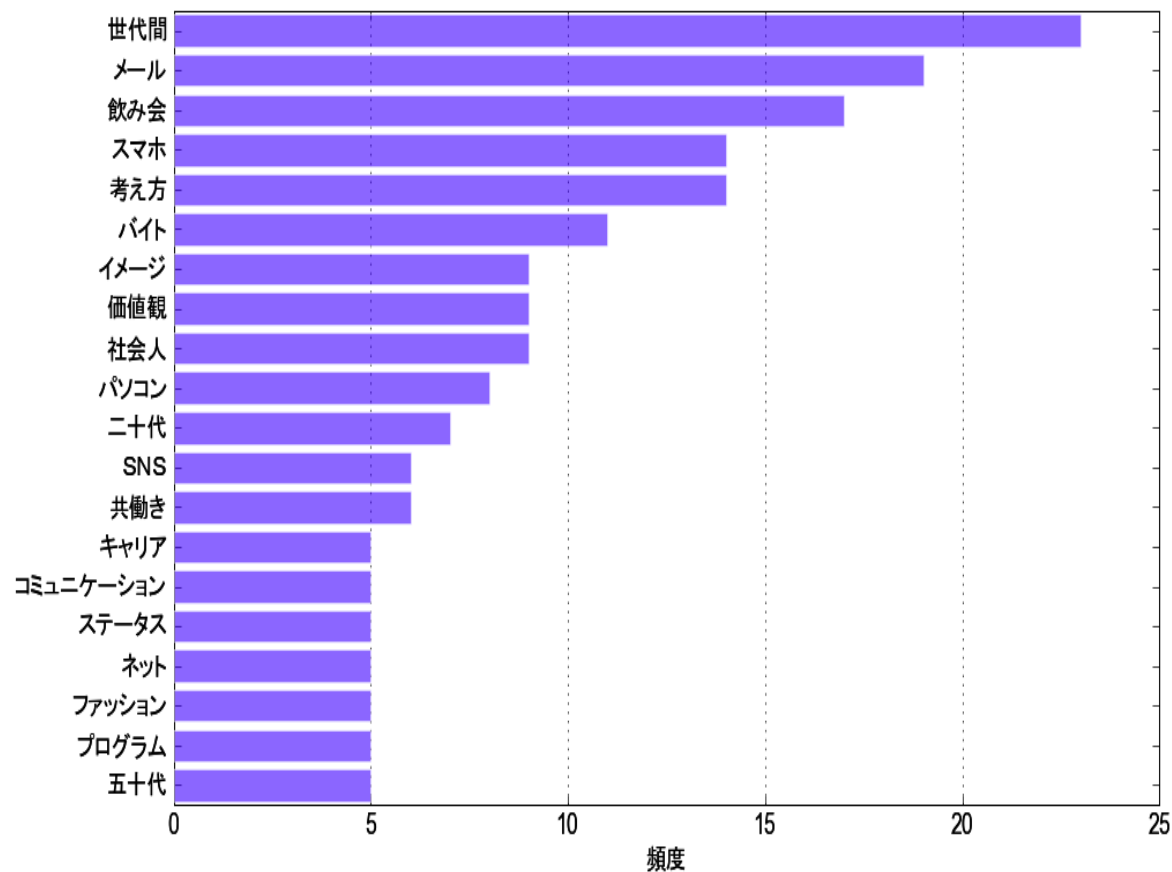
分析結果

統計

項目	値
総行数 635	635
平均行長(文字数)	48.2
総文章数	1128
平均文章長(文字数)	27.1
延べ単語数	6244
単語種別数	1904

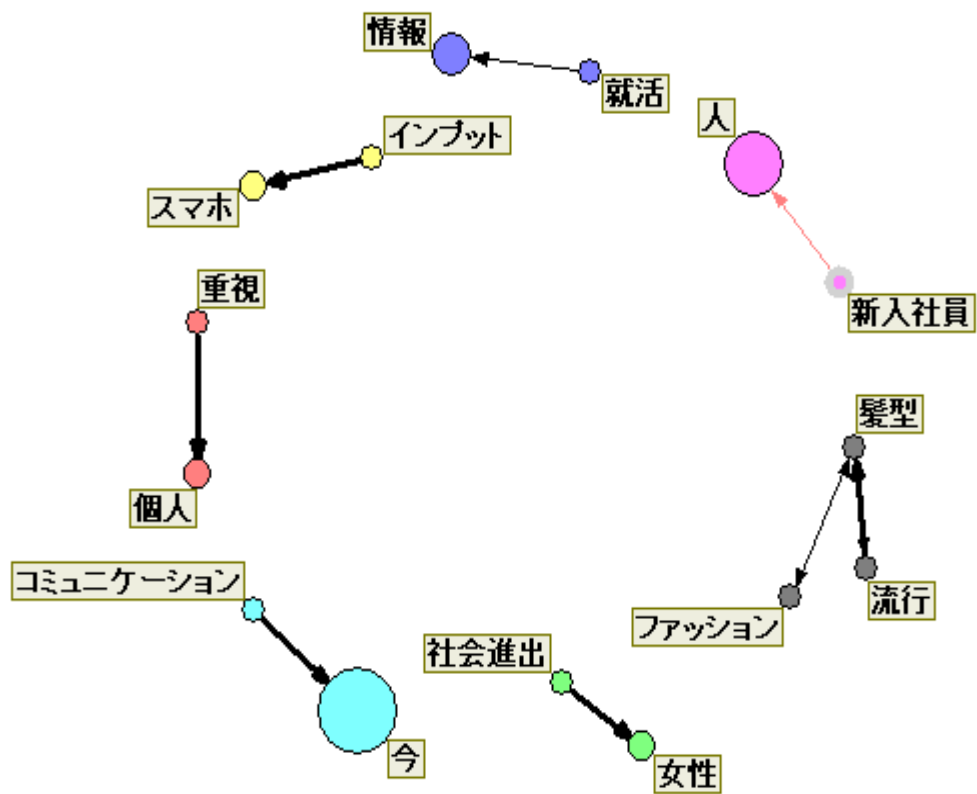
単語頻度 全体

• グラフと発見事項



- イメージや価値観という単語が出てきていることから、自分達が持つイメージを言うことによって、各世代の認識のギャップを共有していたことが分かる。
- 飲み会、バイト、社会人、キャリアなど仕事に関する話がメインでされていた。

言葉ネットワーク

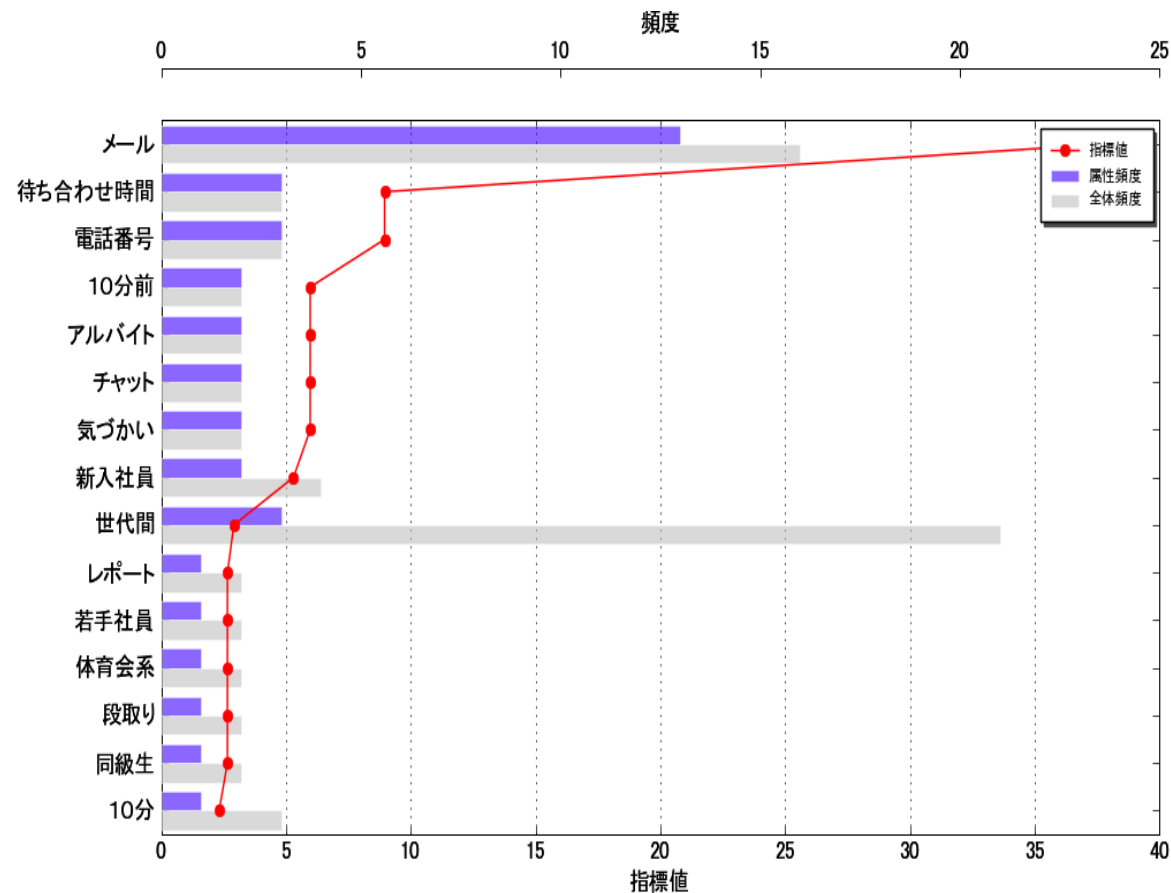


世代間ギャップは

- 就活
- 新入社員
- 流行
- 女性
- コミュニケーション
- スマホ

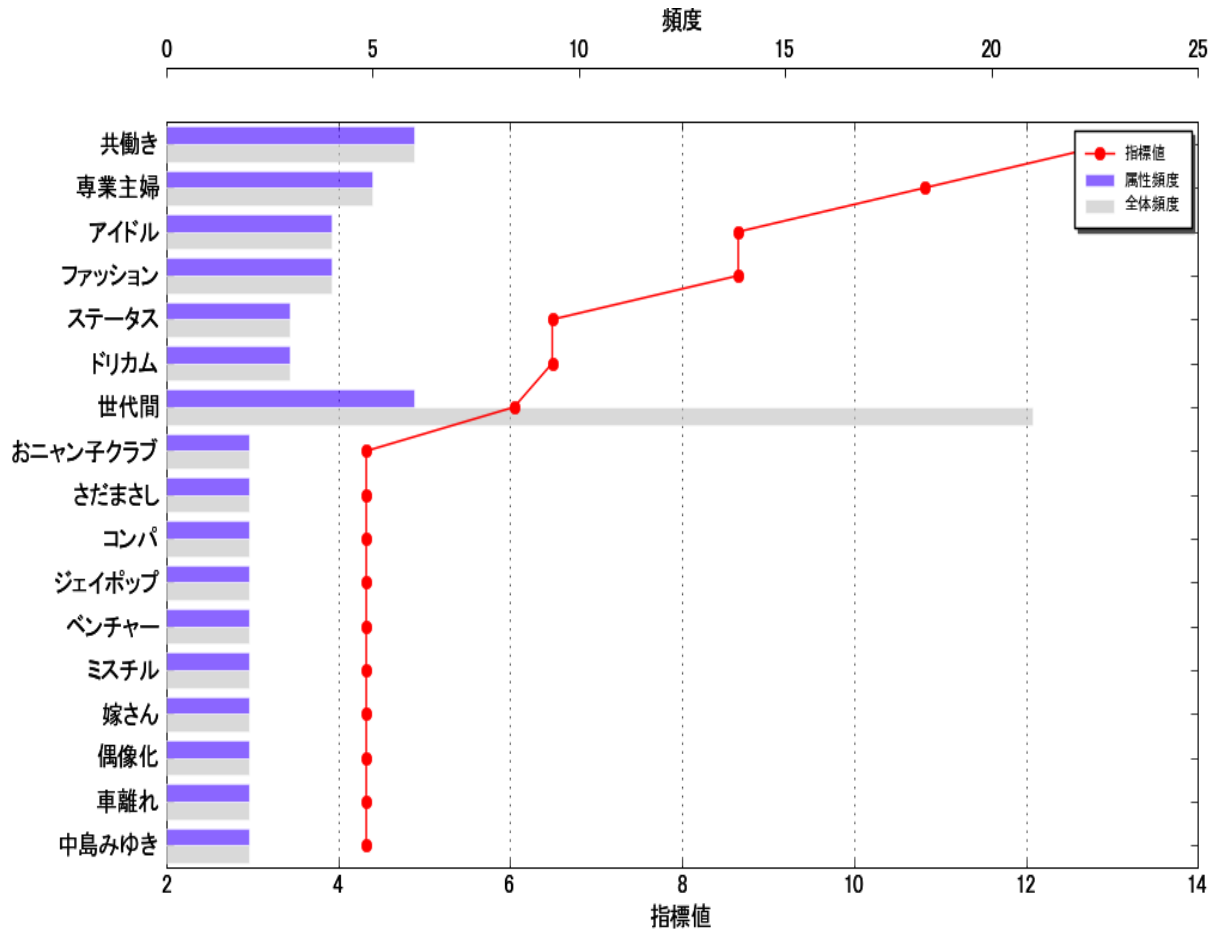
に分類できる。

各班の特徴：1班



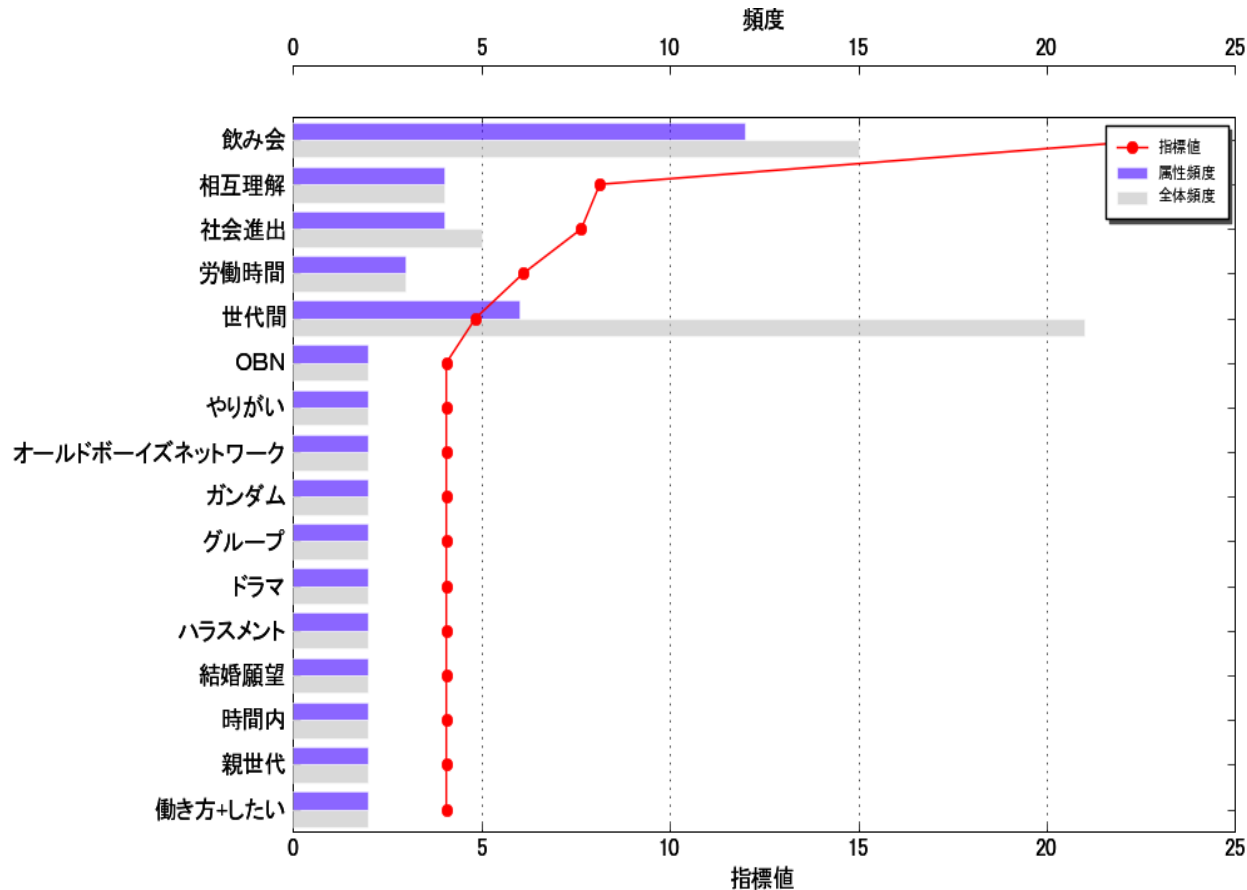
- この班は待ち合わせ時間や10分前、段取りなどのワードが出ていることから、時間管理や社会における意識の差について話していた。
- メールやチャット、電話番号というワードが多いことから、スマホの普及やそれによる変化について話し合っていた。

各班の特徴：2班



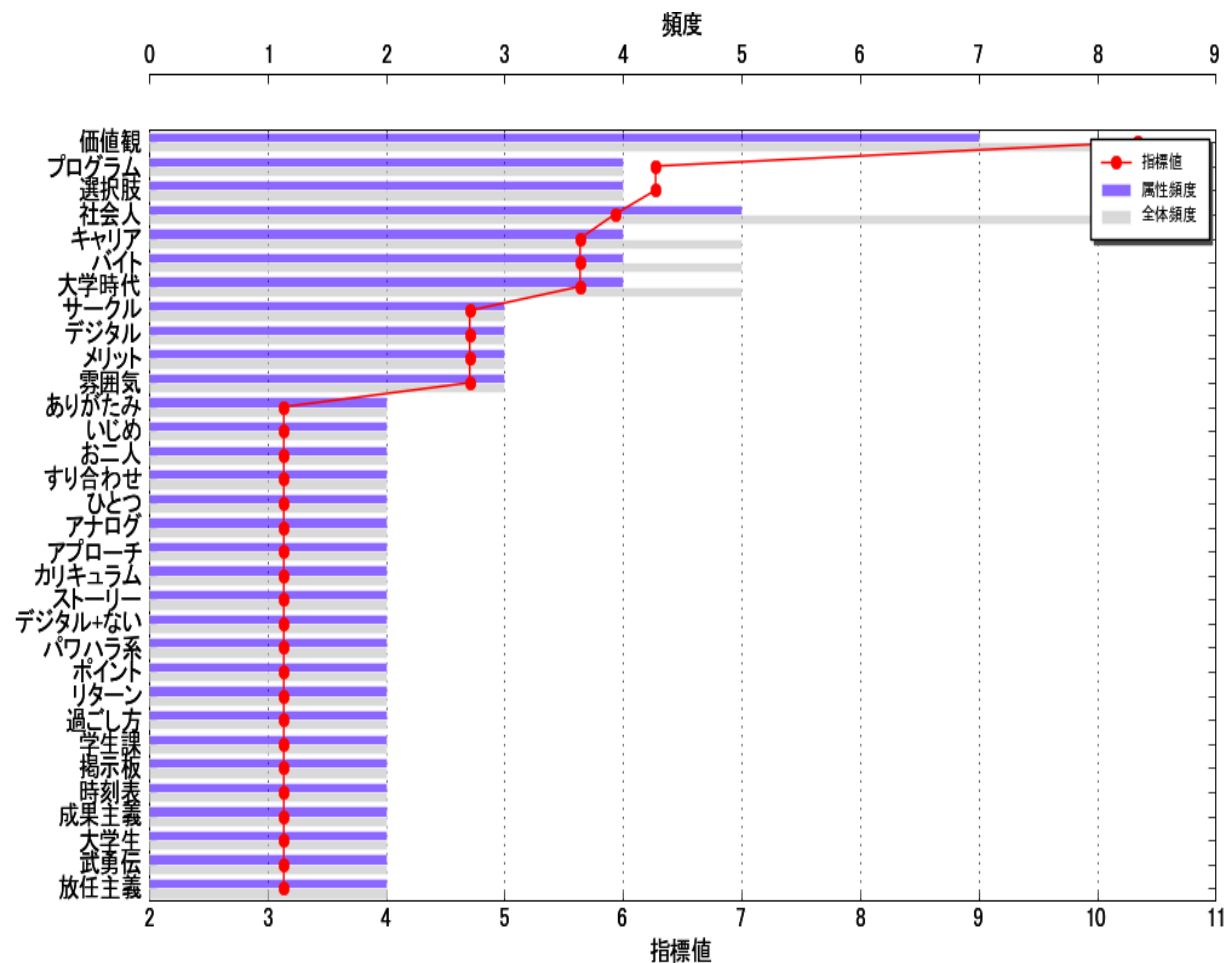
- 共働きや専業主婦、嫁さん、という語が多いことから、この班は結婚や家族形態について話し合っていた。
- アイドルや有名グループの名前などが出てきていることから、テレビや音楽などの娯楽についても話し合っていた。

各班の特徴：3班



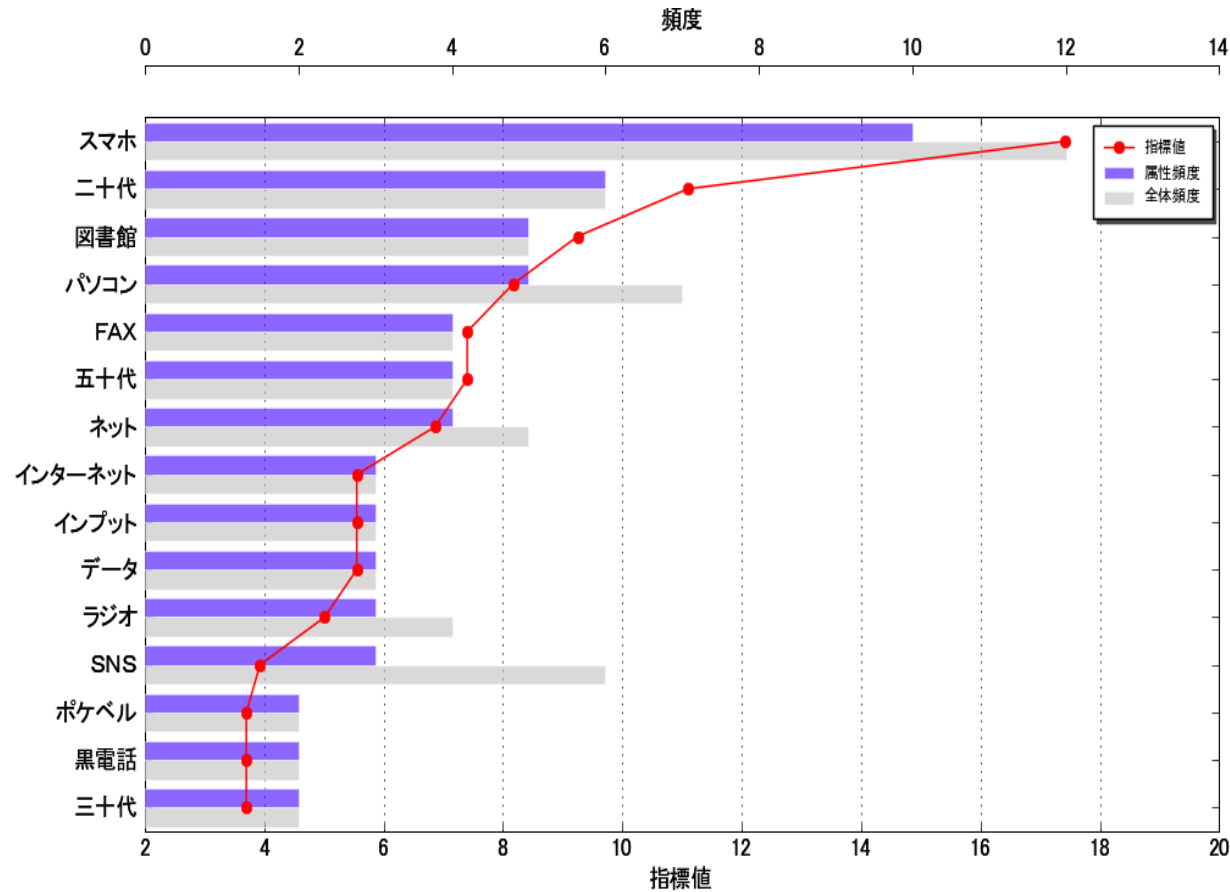
- 飲み会や相互理解、オールドボーイズネットワークと出てきていることから、会社での人間関係について話し合っていた。
- 他の班よりも就職や会社に関する単語が多くある。

各班の特徴：4班



- この班だけ他の班と比べて、とても多くの単語が出てきた。
- 学生課やカリキュラムなど、学校に関する言葉が多かったことから、学生生活について話し合っていた。

各班の特徴：5班



- スマホ、ポケベル、SNS、黒電話とあることから、友人との連絡の取り方の違いについて話し合っていたことが分かる。
- 図書館、パソコン、スマホ、ラジオなどがあることから、年代ごとの情報の取得方法の違いについても話されていた。

各班の特徴 まとめ

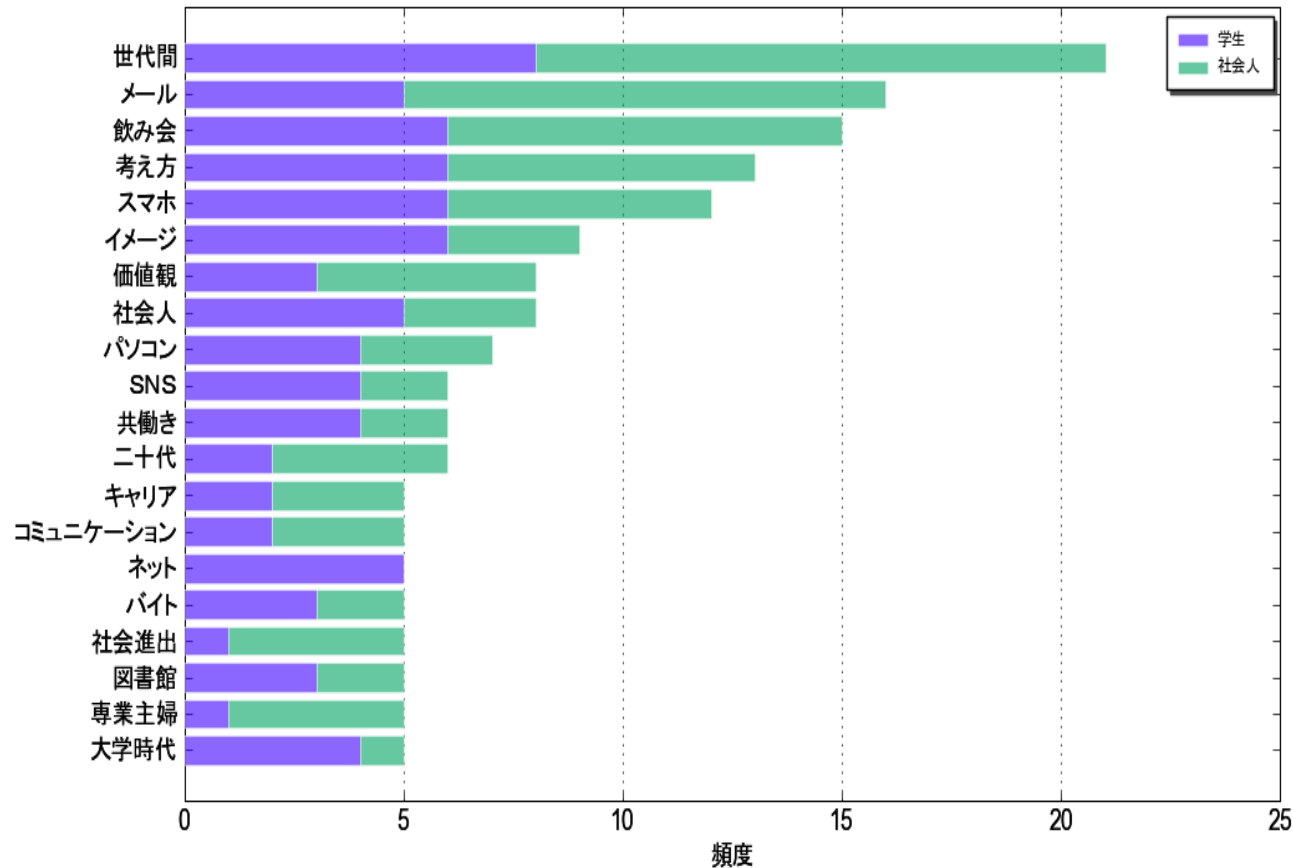
同じテーマでディスカッションしたのにも関わらず、連絡手段、結婚後の生活、大学生活など、どの班も異なった話の内容をしていた。



世代間格差は何気ない日常生活の中に多く存在している。

単語頻度 職種別

• グラフと発見事項

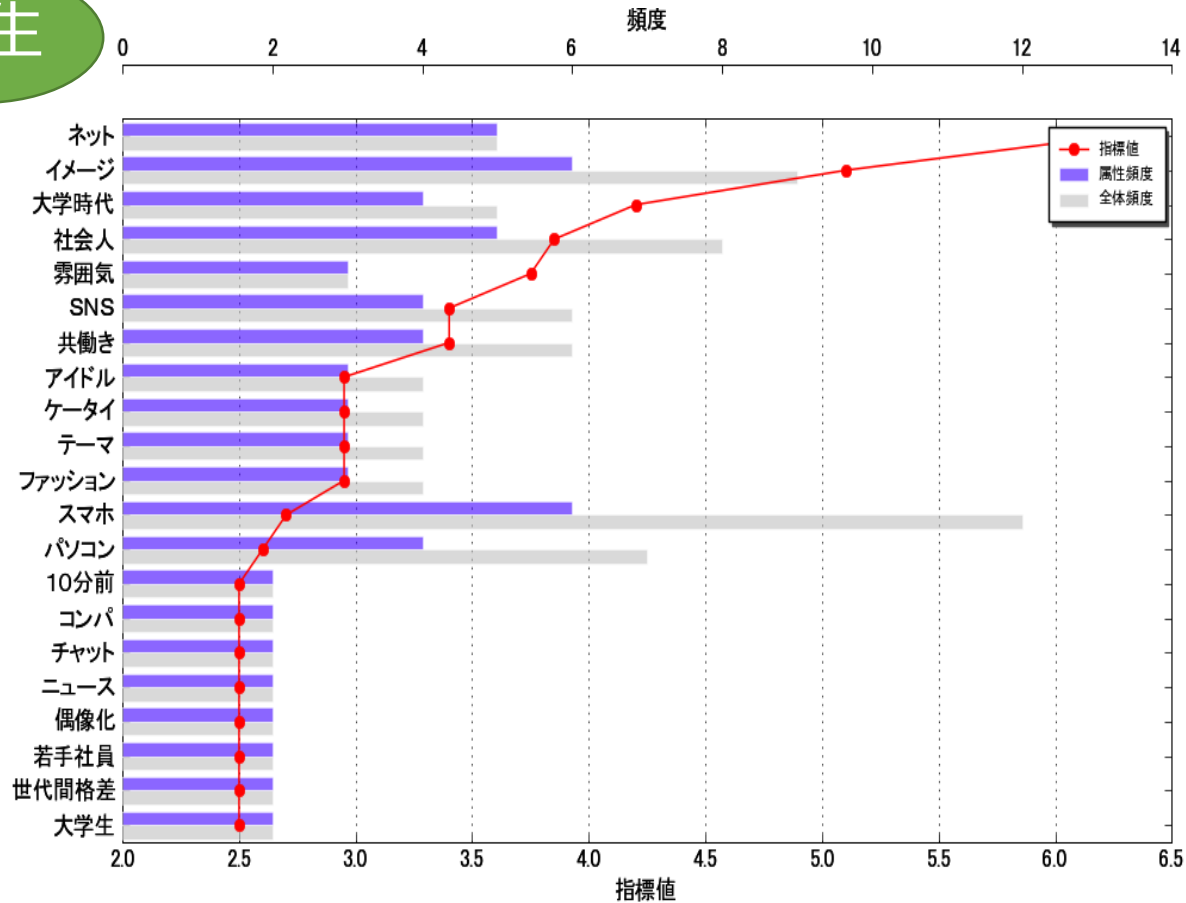


- メールやパソコンにおいて、学生も社会人も同じぐらいの割合であることから、双方ともそれを重要と認識しているのがわかる。
- 学生は現在社会人の人が、どのような大学時代を送っていたのか聞く傾向がみられた。

特徴語 職種別

・グラフと発見事項

学生

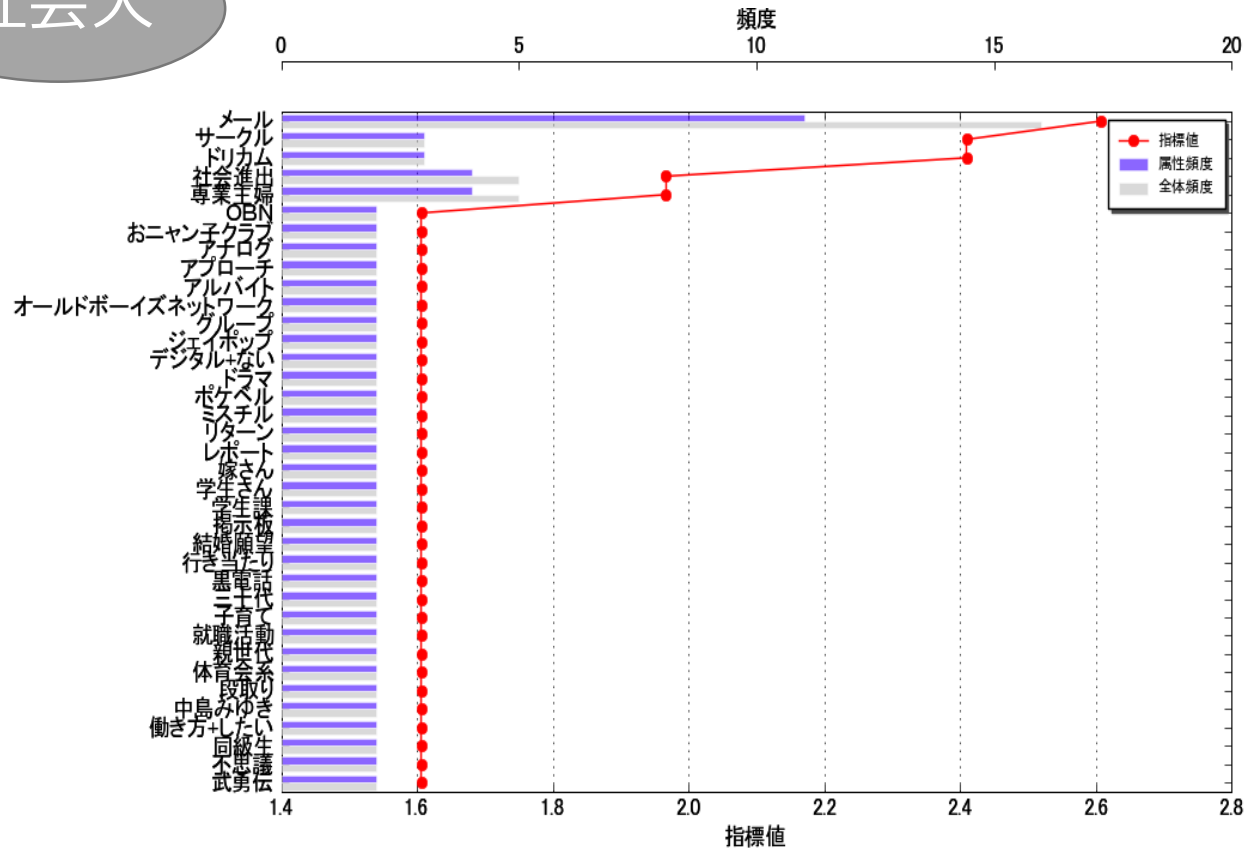


- ネット、SNS、ケータイといった単語が多く出ていることから、学生の傾向としてネットに関する重要度が高いことが挙げられる。
- イメージや雰囲気という単語の頻度が高いことから、学生はディスカッションの中で抽象的な表現を多く使用していることがわかる。

特徴語 職種別

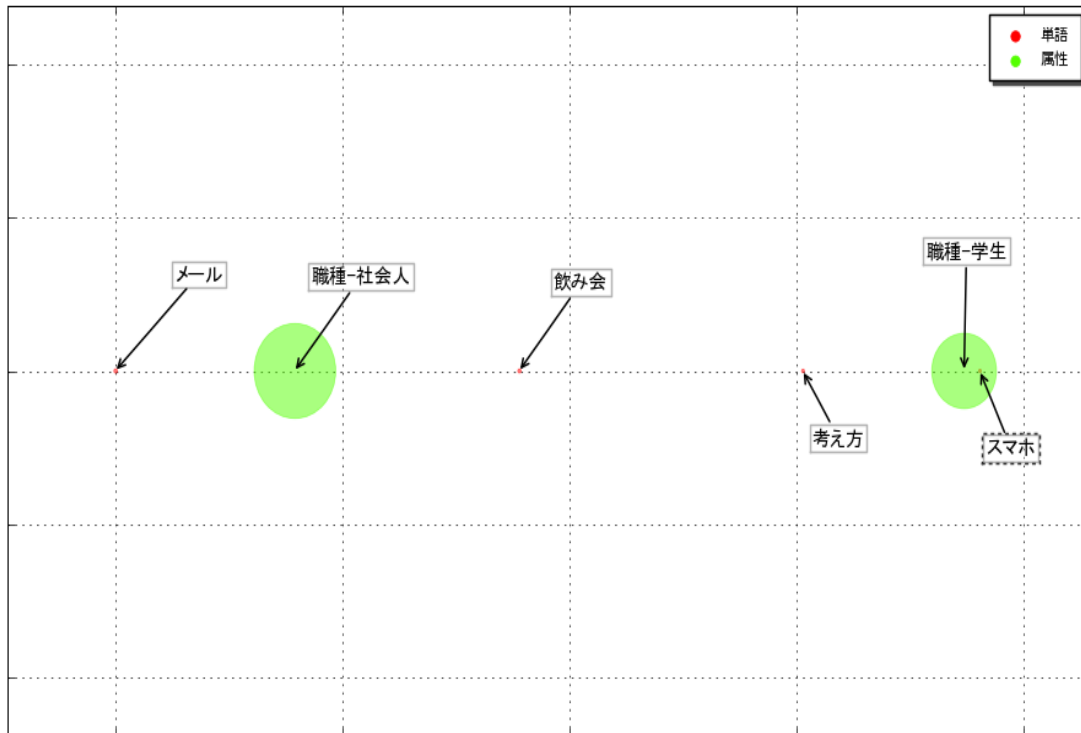
・グラフと発見事項

社会人



- 学生に比べて出てくる単語数が多いことから、社会人は話題量が多いことがわかる。
- 専業主婦や嫁さん、結婚願望という単語が出ていることから、社会人は結婚や結婚後の生活について関心が高い。
- おニャン子クラブや中島みゆきなど、昔のアイドルや歌手について話す傾向がある。

対応バブル分析



原文一部抜粋

「確かにね。受け取る側にしろ、送る側にしろいつでも自分の好きな時間に見れる、見るという行為が、自分の時間の支配下におけるっていう意味では**メールの方がいい**かもしれない。今だったら相手の時間に合わせないといけないから」(社会人)

「フォーマルならメール、友達とかフォーマルじゃなかったらチャット。電話は指定があったらです。」(学生)

結論1

- 世代間ギャップは、就活・新入社員・ファッションの流行（髪型など）・女性の社会進出・コミュニケーション・スマホに対する考え方などに見られる。
- 同じトピックで議論しても、グループによって世代間ギャップでイメージすることは多様である。
- 日常の様々な側面で世代間ギャップは観察され、ステレオタイプでこれが世代間ギャップだといえるトピックは存在しない。
- 互いに意識しないトピックで、「通じている」と思っていることがじつは通じていなかったことがあるかもしれない。

結論2

- 世代間ギャップとして、**連絡手段**の違いがみられた。



社会人はメールを好み、学生はメールを敬遠する。

- 次に**世帯の在り方に対する価値観**が挙げられる。



社会人は男は働いて家族を養う人が大半で、学生は共働きが一般的だと考えていた。

参考文献

- 佐藤友美子（2007）世代研究の展開と課題—世代間ギャップと次世代研究—
- 日経MJ（2016/10/26）『30代中堅が指令「通訳」——上司とデジタル世代の溝解消法、抽象論を具体化して浸透』
- 厚生労働省(2017年10月10日閲覧)
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/4-21c-jyakunenkoyou-h25.html>